屋久島沢集中（Bﾁｰﾑ）～天国に一番近い島～

【報　告　者】ノム
【日　　時】平成 20 年 8 月 22 日～27 日　【天　候】降ったり晴れたり
【参　加　者】N尾(ひ)、N尾(め)、ノム

≪コースタイム≫

22 日 21:00 福岡発(N尾号)＝（泊）　雷雨
23 日 7:45 鹿児島港発～宮之浦港＝神之川林道終点－11:30 宮之浦川入渓～
　14:40 遡行中止－15:30 営林小屋(泊)　曇のち雨
24 日 7:00 発＝林道終点～8:30 カネオリ谷入渓～12:50 高塚小屋（遡行終了）－
　14:00 新高塚小屋(泊)　曇
25 日 7:00 発－9:20 永田岳－10:20 宮之浦岳－11:35 翁岳－12:40 宮之浦岳－
　14:30 新高塚小屋(泊/Aﾁｰﾑ合流)　晴
26 日 6:30 発－縄文杉－ｳｨﾙｿﾝ株－ﾄﾛｯｺ道－辻峠－11:15 白谷雲水峡－宮之浦(泊)　曇

≪　報　　告　≫

初日は、本来のコスギダ谷遡行を断念したために時間的余裕ができたことから、カネオリ谷の下流をなす宮之浦川から遡行を開始。しかし途中から雷雨に伴って瞬く間に増水したため遡行を中止し、河道に沿う林道に上がった。この間にヤマヒルの洗礼を受けることとなった。(遡行時間 3 時間 10 分)

カネオリ谷遡行は前日来の降雨による増水のため沈水橋からの遡行を取り止め、林道の終点より入渓することとした。8:10 の入渓後ゴーロを辿ること 10 分でつり橋の残骸に出会う。ゴーロとゴーロとの間を流れ落ちる滝(?)をかわしながら、ゴーロの間を縫っての遡行が続く。入渓の 1 時間後、ようやく露岩が見られるようになり、浅いゴルジュと瀑流や斜滝を交える核心部となる。巻くことは容易であり、技術的な困難さはあまりない。小 1 時間もすると核心部は抜けて再びゴーロのみの渓相となり、やがて水量は減って源流域の様相を見せるようになる。水が切れることはあまりなく、ヤブ漕ぎもなく 12:50 には高塚小屋のある稜線に出る。(遡行時間 4 時間 40 分)

≪ 感　　想 ≫

◆N尾(ひ)　　屋久島は何度も行っていますが、沢は今回が初めてでした。天候に恵まれず、残念ながらメインのコスギタ沢には入渓できませんでしたが、宮之浦川を下流域から歩くことができ、屋久島の沢らしい景色にも少し触れられたことは次回へつながる収穫でした。

今回、山行そのものよりも、もっとも印象に残ったのは食担のN尾めさんの豪華メニューで、彼女の小さなザックからドラエモンのポケットのように次々に新鮮な食材が出てくるのには驚きました。朝は、レタス、キュウリ、トマト、チーズ、ロースハムの野菜サンドがたっぷり。夕食にはボリュームのあるチーズ入りウインナーを炒め、生米を焚いてリゾットにして生卵で仕上げなど。そして、それらの食材をすべて背負って提供してくれたことに二重の感激です。生玉子には揺れて割れない工夫もしてありました。軽量化も大事ですが、食事の楽しみを失わない工夫も大切ですね。山で食べると何倍もおいしいですよ。感謝、感謝です。今後、おおいに参考にさせていただきます。僕の山行スタイルが変わりそうです。

次回の屋久島では、大きな川を河口から源流まで歩いてみたいですね。技術がないので難しいルートは行けませんが、ぜひ実現したいです。今回、リーダーのA久さんには綿密な計画と技術指導と大変お世話になりました。学んだものを今後に生かしていきたいです。また、B チームのリーダーのノムさんをはじめ、メンバーの皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

また、屋久島に集いましょう。

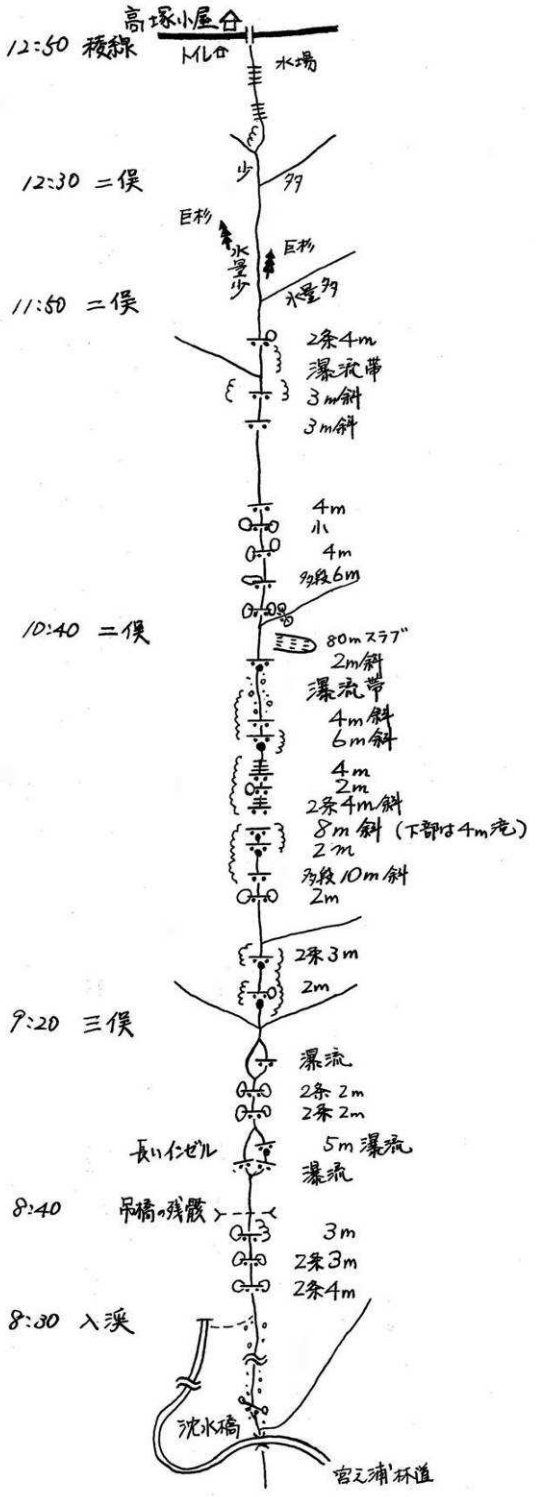
◆N尾(め)　　約４ヶ月間に及ぶ屋久島沢遡行のための訓練を終え、いまだに懸垂下降が苦手な私をチーム屋久島の一員として迎えていただきありがとうございました。

今回、山小屋には大変お世話になり、雨の中での沢中泊の厳しさを体験せずに済んだのは運が良かったのか・・・まだまだ沢中泊の奥深さを知るにはいたりません。

また、初日の雨で急激な増水を目の当たりにし、自然の怖さを実感。コース変更のおかげで沢登りに行ったにもかかわらず永田岳・宮之浦岳・翁岳を制覇することができ、雪山と違い炊

きたての美味しいご飯も食べることができ、大満足の山行となりました。ただ、少々お酒が足りなかったので、多からず少なからず余ることなくアルコールを山へ持っていく技術を習得することを今後の課題としたいです。

≪ 遡 行 図 ≫

カネオリ谷

H20.8.24（ノム）